

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>(1) 私たちの時代と歴史</p>	<p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p> <p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史的事象と現在との関連を考察する活動を通じて、それぞれの時代での変化や違いを踏まえ、近代から現代へとつながる日本という近代国家の成り立ちを理解する。
<p>(2) 近代の日本と世界</p>	<p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p>	<p>[近代の萌芽]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米で資本主義経済を特徴とする近代国家が成立し、植民地を求めて欧米列強がどのようにアジアに進出したのかを理解する。 ・手工業の発展ほかに天保の改革などの江戸時代後半の情勢やイギリスなどの欧米列強の接近が現実化する中で、寺子屋や私塾などの教育機関などが近代化の基盤になったことを理解する。 <p>[開国から幕府の滅亡]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカがペリー艦隊を送って開国を要求してきた理由と、江戸幕府が開国を決断した理由やを理解する。 ・日米修好通商条約の締結によって、日本が欧米の資本主義市場に組み込まれたことを知るとともに、この条約の内容が不平等条約であったことを理解する。また、貿易の影響を理解し、そのことが原因で攘夷運動が活発化したことを原因を理解する。 ・開国後、尊王攘夷派と公武合体派に別れ対立する情勢となった原因や中心勢力の状況を理解する。 <p>[明治初期の諸改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府が富国強兵・殖産興業をめざして実施した廃藩置県、徴兵令、地租改正などの諸改革の具体的内容と、その後の影響について理解する。 ・文明開化の目的と内容、それが人々に与えた影響を理解する。

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に注目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p>	<p>[明治初期の外交]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清修好条規、日朝修好条規の内容を知り、明治初期の外交の特徴を理解する。 ・さまざまな条約や諸事件の内容を知り、領土の確定の経緯を理解する。 <p>[自由民権運動の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動が藩閥政府への不満から議会の早期開設、憲法の制定をめざしていたことを理解する。 ・松方デフレ政策までの国内の経済的状況、また政策実施後の民権運動に与えた影響を理解する。 <p>[立憲体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の内容として、天皇の位置づけ、統帥権、臣民の権利などの特徴について具体的に理解する。 ・民法典論争を踏まえ、家族制度や相続制度の特徴を理解する。 <p>[条約改正]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外交政策の重要課題である不平等条約の改正交渉の過程と国際関係の変化について理解する。 <p>[日清・日露戦争と国際関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壬午軍乱や甲申事変を通して、朝鮮の支配権をめぐる日本と清国の対立が起き、日清戦争へとつながったことを理解する。 ・下関条約の内容と、賠償金により金本位制の確立につながったことを理解する。 ・三国干渉により日露両国の対立が激化し、列強による中国分割が進んだことを理解する。 ・日英同盟を結んだ日本が大韓帝国や満州の利権をめぐってロシアと対立し日露戦争に至る経緯を理解する。 ・ポーツマス条約の内容と日比谷焼き討ち事件の背景を理解する。 ・大韓帝国に対する植民地化の過程を、アメリカ・イギリス・ロシアなど列強との関係を踏まえて理解する。

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢</p> <p>(ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p>	<p>[政党政治の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次護憲運動、米騒動などを踏まえながら初の本格的な政党内閣である原敬内閣について理解する。 ・第一次世界大戦を経て、労働争議や小作争議、または社会主義や共産主義の思想が広がったことを理解する。 ・第二次護憲運動を経て護憲三派内閣の成立と二大政党制が続いたことと「憲政の常道」と呼ばれた政党政治の特色を理解する。 ・無産階級の政治への進出やソ連の誕生と関連させて普通選挙法の成立と同時に治安維持法が成立したことを理解する。 <p>[産業革命の進展と資本主義の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紡績業や製糸業を中心とする軽工業から始まった日本の産業革命により資本主義が確立する一方で、労働問題や公害問題、社会運動などが起きたことを理解する。 <p>[国民生活の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業化の進展などの産業構造の変化により都市への人口移動が起こり、労働問題や公害等の様々な社会問題が出てきたことを理解する。 ・日露戦争後から昭和初期にかけて、「大正デモクラシー」という風潮の中で様々な思想が普及したことを理解する。 <p>[第一次世界大戦前後の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦において、日本が連合国して参戦し、二十一カ条の要求による中国の民衆の反発が起きたことを理解する。 ・ヴェルサイユ体制・ワシントン体制下の日本の協調外交の展開を具体的に理解する。 ・大戦景気と社会・産業構造の変化について理解する。 <p>[戦間期の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、昭和恐慌など、日本が続けて恐慌が発生し、経済状況が悪化する中で、社会不安が増大したことを理解する。 ・世界恐慌により展開されたニューディール政策など各国の対策について理解する。

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>ウ 近代の追究</p> <p>近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。</p> <p>第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・五・一五事件や二・二六事件が起きた原因と、その後の影響について理解する。 <p>[第二次世界大戦前後の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中戦争が長期化する中で、国内では全体主義的な国家体制が構築され、一方、日本は南方進出を行い、連合国と開戦するに至る過程を理解する。 ・近代日本画どのように形成され展開してきたかを、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などの中から主題を設定し、考察する。 	
<p>(3) ア 現代日本の政治と国際社会</p> <p>現代の日本と世界</p> <p>占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p>	<p>[我が国の再出発]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦敗戦後の日本はアメリカを連合国軍の占領下に置かれGHQの発する指令に基づいて日本政府が実施する間接統治の形態で実施されたことを理解する。 ・戦前の日本の社会状況を踏まえて戦後に実施された五大改革について、財閥解体や農地改革などの具体的な内容を理解する。 ・日本国憲法の成立過程や、日本国憲法と大日本帝国憲法とを比較して、その相違点や日本国憲法の特徴について理解する。 ・戦後の混乱の中で政党政治が復活し、労働運動を初めとする社会運動が活発化したことを理解する。 <p>[冷戦の開始と講和]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカとソ連による冷戦が始まった経緯や冷戦がアジア諸国に与えた影響について、第二次世界大戦後の国際情勢の動きを踏まえて理解する。 	

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>イ 経済の発展と国民生活の変化</p> <p>戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中国や朝鮮半島などの東アジア情勢の変化に従い、GHQの占領政策が大きく変化したことの意味を理解する。 ・朝鮮戦争の開始が、日本の政治・経済に与えた影響について、朝鮮特需を中心に理解する。 ・サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約の内容やその意義について理解する。 ・奄美諸島、琉球列島、小笠原諸島がアメリカの施政権下に置かれ、沖縄では祖国復帰運動が展開されたことを理解する。 <p>[政治や対外関係の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保革対立による55年体制が約40年間続いたことやその社会的影響について理解する。 ・多極化する国際情勢の変化やアジアの緊張が日本の政治・外交政策に大きな影響を及ぼしたことを理解する。 ・冷戦終結後の国際環境の変化を理解するとともに、日本に求められる役割について理解する。 <p>[日本経済の発展と国民生活の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の経済復興の歩みについて、財閥解体、農地改革などの戦後改革から石油危機を克服して高度成長に至る過程と、石油危機を脱して経済大国に至る歴史過程を理解する。 ・高度経済成長の過程において、社会構造や家族の形態が変化した結果、産業構造や国民の意識にどのような変化が起きたかを具体的に理解する。 ・二度の石油危機を経て、日本経済が安定成長に入り、国際協調を重視した経済政策が実施されるようになったことを理解する。

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>ウ 現代からの探究</p> <p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本社会が直面する身近な社会事象や、地域の事象、現代の課題について資料等を多角的に使用しその解決に向けた具体的方策について理解する。